

# ◎白鳥図鑑

## 1. コハクチョウとオオハクチョウ

大河原にやって来る白鳥は、大きく分けてコハクチョウとオオハクチョウの2種類です。そのうち全体の8-9割がコハクチョウです。大多数を占めるコハクチョウですが、日中はそのほとんどが周辺の田んぼや小川に落ち穂や水草を求めて飛び立つため、日中の飛来地はオオハクチョウばかりが目立ちます。



コハクチョウ



オオハクチョウ

オオハクチョウはコハクチョウよりひと回り大きく、鳴き声が甲高いのが特徴ですが、比較的わかりやすい見分け方はクチバシの形です。オオハクチョウのクチバシは黄色部分が多く、また鋭く先の黒色部分に食い込んでいます。そしてクチバシ全体が細長い形をしています。



コハクチョウ(黄色部分が少ない)



オオハクチョウ(黄色部分が多い)

## ○幼鳥

灰色の“白鳥”が幼鳥です。徐々に白色が交じり2-3年で成鳥になります。



コハクチョウの幼鳥



オオハクチョウの幼鳥

コハクチョウの幼鳥は、クチバシの前の部分がピンク色です。



コハクチョウ幼鳥のクチバシ



オオハクチョウ幼鳥のクチバシ

## ○コハクチョウのグループ分け

オオハクチョウはクチバシの形にほとんど個体差がありませんが、コハクチョウは1羽1羽形が違うため個体の識別が比較的容易です。

大きく分けて、

- ①クチバシの黒色部分が基部まで達している“Darky(ダーキー、愛称:黒ちゃん)”
- ②オオハクチョウのように黒色部分が途中で途切れている“Yellowneb(イエローネブ、愛称:黄くちばし)”
- ③黒色部分が基部までであるが、途中に黄色部分がある“Pennyface(ペニーフェイス、愛称:黄ポッチ)”

の3タイプがあります。



ダーキー(黒ちゃん)



イエローネブ(黄くちばし)



ペニーフェイス(黄ポッチ)

## 2. アメリカコハクチョウ

アメリカコハクチョウは、その名のとおり北アメリカ大陸で繁殖・越冬する白鳥なのですが、国内にも毎年数十羽が飛来します。岩手県北上市の北上川・大堤や福島県東村の阿武隈川にまとまった数のアメリカコハクチョウが飛来し

ます。大河原町の白石川にも、渡りの途中や“遠出のお散歩”にやって来ることがあります。

アメリカコハクチョウはクチバシのほとんどが黒く、基部に目玉大ほどの黄色部分があるだけです。岩手県北上市に十数年前に飛来したアメリカコハクチョウ「クロチャン」は、普通のコハクチョウ「カアサン」と夫婦となり、クチバシの黄色部分が純系のアメリカコハクチョウより多い、亜種間交雑種が生まれました。今では、孫やひ孫など 60 羽以上の“クロチャンファミリー”で賑わい、大河原に遊びに来たこともありました。



アメリカコハクチョウ



コハクチョウとの亜種間交雑種

### 3. 標識白鳥

日本・アメリカ・ロシア・中国の共同で白鳥の渡りの経路や寿命を調べるため、首や足に標識を付けられたコハクチョウが、大河原町の白石川に飛来したことがあります。

緑地の標識に白文字で、116Y・034Y・051Y・119Y・124Y・115Y・129Y と書かれた 7 羽が飛来したことがありますが、これらのコハクチョウはすべて北海道北部の浜頓別町クッチャロ湖で付けられたものです。クッチャロ湖は、シベリアと越冬地を結ぶ渡りの中継地で、毎年 4 月から 5 月にかけて、数万羽のコハクチョウが全国各地から集結します。



116Y(装着後 14 年生存)



051Y



124Y(福島県南部で越冬)



034Y



129Y(5 年連続飛来)



浜頓別町クッチャロ湖

#### 4. 何をしているのかな？

##### ○羽ばたき

翼を大きくいっぱい広げ、背伸びをするように4-5回羽ばたきをします。まるで、仲間たちや私たち人間にあいさつをしているかのようです。



##### ○睡眠

身体の熱が失われないように、クチバシを翼にしまい片足立ちで休みます。足には大きな水かきがあるので片足でも大丈夫。

##### ○羽づくろい

羽づくろいは、白鳥にとって非常に大切な行動です。自分の身体から出る油を翼にすり込むことにより、水を弾いたり水に浮かぶことができるのです。また、身体についた虫を取り払うなどの役目もあります。



##### ○親子の絆



親子の絆はとても深く、危険から身を守るため、いつも親子一緒に行動をします。幼鳥は警戒心がなく好奇心が旺盛で、しばしば単独行動を取りますが、すぐに親鳥がつついてたしなめます。

「坊や、私たちから離れちゃダメだよ」

「うん、わかったよ。パパ、ママ」

##### ○愛情表現

2羽が向き合い、胸とクチバシをくっ付けて、ちょうどハートの形を作ります。そして交互に首を上下させながら鳴き合い、愛を語り合います。

白鳥の夫婦はどちらかが死ぬまで、ずっと一緒だそうです。



### ○けんか



お互い噛み合ったり、翼を打ちつけ合ったりと激しいのですが、プロレスごっこのような「暇つぶし」と思われます。

そして、勝者は観戦者とともに雄叫びを上げ、敗者は何事も無かったかのように、そっと逃げていく様が滑稽です。

---

### ○ディスプレイ

他の白鳥が、自分の縄張りに侵入してきたときに、翼を大きく広げ威嚇し、首を伸ばして大きな声で鳴いて警戒します。

「ここは僕たちの縄張りだよ。入っちゃダメ！」



### ○逆立ち採餌



白鳥は水の中に潜ることが出来ません。水中奥深くあるエサは、長い首を活かして、逆立ちしながら採餌をします。

「あら、ちょっと失礼！」

---

### ○飛び立ち

水かきで水面を蹴って、上流(風上)に向かって助走をつけながら、飛び立ちます。約 100m 助走することもあります。



## 5. その他の白鳥、水鳥たち

### ○コブハクチョウ

コブハクチョウは、ヨーロッパや中央アジアに多数生息しており、家きんとして飼育されているものもあります。クチバシは、オレンジ色で基部に黒いふくらみがあります。

日本では、公園の池などで飼われていたものが逃げ出し、半野生化したものが渡り鳥として飛来しています。平成4年度(1992-1993)と平成5年度(1993-1994)の2シーズン飛来を記録しています。

平成18年度(2006-2007)のシーズンには、13年ぶりに白石川に姿を見せました。

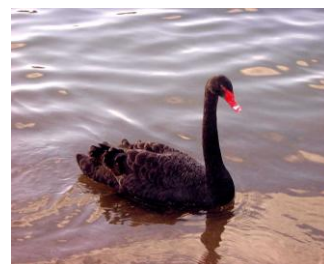


コブハクチョウ

## ○コクチョウ

コクチョウは、全身黒色で風切羽だけ白く、クチバシが赤いのが特徴です。オーストラリアに生息している鳥ですが、動物園や公園の池で飼育されており、そこを逃げ出して半野生化したものが、全国各地に数羽飛来しています。

平成12年(2000)2月19日に大河原河川公園に飛来しました。ほかの“白鳥”が気味悪がって、コクチョウに近寄らなかったのが印象的でした。



コクチョウ

## ○その他の水鳥たち

白鳥の仲間であるカモ類で一番多いのはオナガガモです。餌付けを行っている飛来地では、どこも非常に多いです。マガモのオスは頭部がきれいな緑色で、「アオクビ」と呼ばれています。キンクロハジロは、川の中に潜ってエサを捕ります。カモ類は冬の間オスが派手な色に変わり、メスの気を引きます。カルガモは、オスメス同色です。

白鳥にパンを与えようとする、「キューイ、キューイ！」とうるさいのが、ユリカモメです。河口から川伝いにやってくるが、中州で夜を過ごすものもあります。

宮城県の鳥である「マガン」もたびたび飛来します。自分を白鳥と思っているのでしょうか？迷鳥として白鳥とともに1羽でやって来るのですが、平成13年(2001)1月には、国内最大の越冬地を抱える宮城県北部が記録的な寒波となり、最大で25羽の集団が避難してきたこともあります。



オナガガモ(手前がオス)



マガモ(左上がオス)



キンクロハジロ(後がオス)



カルガモ



ユリカモメ



マガン

白鳥にエサを与えて“ふれあう”のもいいですが、今度は図鑑や双眼鏡を持って出かけてみませんか？

「今日は白鳥が何羽いた」とか、「めずらしい鳥が来ていた」とか、新たな発見・楽しい発見があるはずです。そしてここから、白鳥保護や自然保護の思想に繋がっていくのです。

出かける際は、防寒対策や長靴等の準備もお忘れなく！